

木知原の今昔!

55号: 25・1・24

“マンガンに行かない者は人間じゃない!”

マンガン景気に沸いた外山村



《マンガン鉱採掘位置[上長瀬から]》



《マンガン鉱入口》

マンガン景気

とは、木知原でマンガン採掘が始まり村に活気が出てきた大正時代末の村の姿をそう呼んだのである。

当時の村は岩崎に吊り橋が架かり便利になった一方で村を素通りする旅人が多くなった。また渡船場が閉鎖されたので他郷からの出店も引き揚るなど村全体が元気をなくしていた時であったからマンガン採掘は村にとって“この世の春”となったのである。

木知原でマンガンが採掘されていたことを知る人は少なくなったが、この採掘作業に従事された林茂氏は当時の様子を次のように語られていた。

♡ マンガンは大正12年頃に山師が木知原・金原・

川内村で鉱脈を発見し、3ヶ所ともほぼ同じ時期に採掘が始められた。

④ 当時は現金収入の機会が少ない時代であったので、どの村も男性は勿論、女性や子どもまでが“マンガン運び”に出かけて日銭を稼いでいた。

④ 一時期、外山村では“マンガンに行かない者は人間じゃない!”と言われたほど“マンガン景気”に沸いて村中が活気づいていた。

④ 給金日を待っていたかのように衣服や調度品を買う人が多かった。

『蓄えるゆとりなどなかった時代であったからな〜』

『背負子やカマスを見ると思い出してさ〜』

と当時を懐かしむようにしみじみ語られた姿が心に残っています。

④ 戦争中は中断、戦後4〜5年間採掘されていたが、鉱質が余り良くなく採算が合わないとの理由で3山とも閉山になった。

(山の神付近でも採掘)

しょいこ
背負子



蒲簀・吠・
かます



写真説明

写真は『久しぶりに…』と右端の穴から入ってみた。

④ 入った処は少し広場でその奥に鼻の孔の様に2本の採掘坑が当時のままの姿で残っていた。

④ 80年近く経っているのに坑内には草木一本生えていない不思議な美しさに驚いた。

♡ 子供の頃コーモリを追いかけたことはあるが採掘坑の姿は記憶から消えていたのでビックリ!!

採掘坑前に立ち林茂氏の話思い出すと当時の様が画けるようであった。(安全対策無・危険)

④ マンガンとはレールやキャタピラ・ワイヤなどの鉄の強度を高めたり、陶磁器の艶出しに使ったりと用途の広い鉱物。